

# Hello! FUJISEI

No. 301

平均寿命が延び、超高齢社会となっている日本ですが、当然のことながら、寿命の伸びは高齢期の期間が延びることになります。その問題点として、看護師や医師などの医療業界の人材不足、社会保障費の増大、介護負担の増大、生産年齢人口の減少などが挙げられ、いずれも国および国民生活に深刻なダメージをもたらします。

平成12年（2000年）にWHO（世界保健機関）が健康寿命を提唱して以来、寿命を伸ばすだけでなく、いかに健康に生活できる期間を伸ばすかに関心が高まっています。

健康寿命が「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されているため、平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「健康ではない期間」を意味します。平成25年（2013年）において、この差は男性9.02年、女性12.40年でした。

健康寿命について、平成13年と平成25年を比べると、男性は69.40年から71.19年へと1.79年、女性は72.65年から74.21年と1.56年延びています。一方、平均寿命をみると、同期間で、男性は78.07年から80.21年へと2.14年、女性は84.93年から86.61年へと1.68年延びてい

## 平均寿命と健康寿命

# 健康ではない高齢期 男性9.02年、女性12.40年

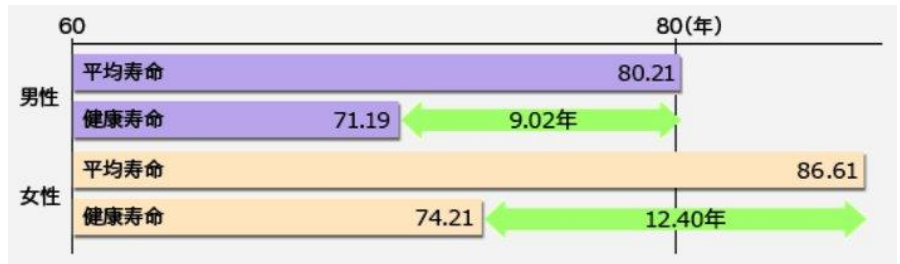
ます。

また、国立社会保障・人口問題研究所の日本の将来推計人口（平成24年1月推計）によれば、平成25年から平成34年にかけて、平均寿命は男性では80.09年から81.15年へと1.06年、女性では86.80年から87.87年へと1.07年とさらに延びることが予測されます。

今後、平均寿命が延びるにつれて健康寿命との差が拡大すれば、健康上の問題だけではなく、医療費や介護費の増加による家計へのさらなる影響も懸念されます。

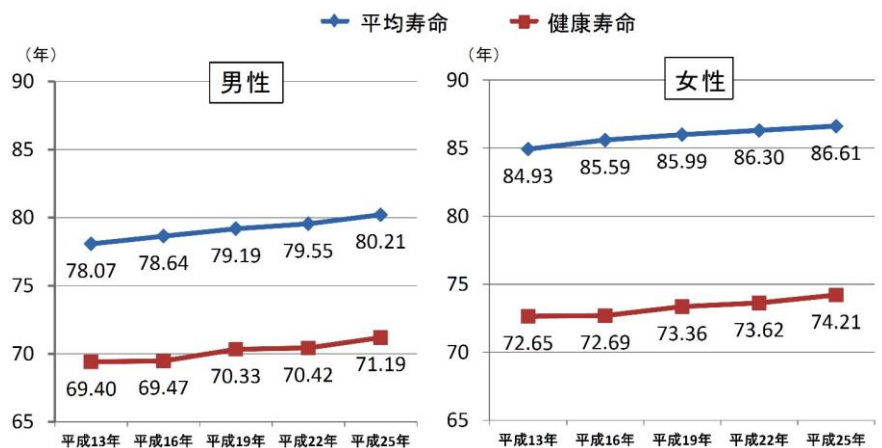
自らの健康に配慮することはもちろんですが、一方で、こうした期間に対する備えも重要と言えます。

### 平均寿命と健康寿命の推移



(注) 平均寿命は厚生労働省「平成25年簡易生命表」  
健康寿命は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」  
〈厚生労働省「厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会資料」(平成26年10月)〉

### 平均寿命と健康寿命の推移



(注) 平均寿命：平成13・16・19・25年は厚生労働省「簡易生命表」、平成22年は「完全生命表」

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20  
神谷町MTビル